

平成25年夏号 Vol.4



ききみみずきん

<発行・編集>喜多方市立図書館
 指定管理者 株式会社 図書館流通センター
 〒966-0822 喜多方市字柳原7503-1
 TEL:0241-22-1855

●<https://tosyokan.city.kitakata.fukushima.jp/>

7月～9月の図書館スケジュール 平日9:30～19:00 土日祝日9:30～17:30

7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 *
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18 ♡	19	20
21	22	23	24	25	26	27 ★
28	29	30	31			

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15 ♡	16	17
18	19	20	21	22	23	24 ★
25	26	27	28	29	30	31 *

9月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14 ✨
15	16	17	18	19 ♡	20	21
22	23	24	25	26	27	28 *
29	30					

- ※ 休館日 たなばたフェスタ (7/2～8/25まで)
- 📖 おはなしドライブ(11:00～11:30) ♡ ちっちゃなおはなしかい(11:00～11:20)
- * ユニットおりがみ教室(10:00～11:30) ✨ 生け花講座(10:30～11:30) ★ その他催し物

たなばたフェスタ

昨年好評だった「たなばたフェスタ」を今年も開催します！
 今年は期間を延ばし、7/2(火)～8/25(日)の間、楽しい催し物を準備してお待ちしています。

～おはなしカーニバル～

7/14(日) 11:00～12:00

おはなしドライブのスペシャル版です。
 絵本の他にも、大型絵本や紙芝居、
 工作など楽しいプログラムがもりだくさんです！
 会場：喜多方市立図書館2階第2閲覧室



～楽しい手作り絵本教室～

7/21(日)・8/4(日) 全2回
 13:30～15:00

世界で1冊だけの絵本を作ってみませんか？
 対象：小学4年生～大人まで
 定員：15名(両日参加可能な方)
 会場：喜多方市立図書館2階 第2閲覧室



～宿題かけこみ寺～

8/10(土)～8/18(日)

平日10:00～18:30 休日10:00～17:00
 夏休みの宿題で困っているお子さんを図書館長
 がお助けします！気軽に相談してください♪
 ただし、宿題の答えは教えません。
 また、図書館を使った調べる学習コンクール
 入賞7作品を展示します。

～リサイクルブックフェア～

8/24(土)～8/25(日) 終日開催

図書館で除籍した本・雑誌や市民の方から
 寄贈していただいた本を無償でお譲りします。
 会場：喜多方市立図書館2階 第2閲覧室
 ※冊数制限なし。段ボールなど図書館では
 用意いたしませんので、各自お持ちください。



特集 喜多方の町と図書館の100年

ちょうど100年前、大正2年(1913)年に原平蔵氏の私立図書館として始まった喜多方の図書館。それから10年後、大正12年(1923)には喜多方町に移管され、町立喜多方通俗図書館と改称します。現在図書館に残されている資料から、当時の図書館の姿を見てみたいと思います。

喜多方町への移管

私立の図書館として始まった喜多方の図書館。開館から10年後、大正12年(1923)には喜多方町に移管され、喜多方通俗図書館と改称しました。建物は私立時代からそのまま原氏所有の建物を借りていましたが、昭和2年(1927)に実践女学校の一部を館舎としました。実践女学校は明治39年(1906)設立の喜多方女子技芸学校を前身とする、主に裁縫を指導した実業補習学校です。『喜多方市史』によれば、現在厚生会館が建てられている場所に校舎がありました。

資料にみる当時の図書館の姿

現在当館には、大正期～昭和初期にかけての目録や館則など、様々な資料が残されています。それらの資料から当時の図書館の姿を垣間見てみたいと思います。

資料名・年	私立喜多方通俗図書館 図書目録・大正3年 (1914)	福島県喜多方通俗図書 館々則・大正13年(1924)	喜多方通俗図書館概要・ 昭和6年(1931)	比較として:喜多方市 立図書館(2013年現 在)
開館時間	午後1時～午後5時 ※日曜日・小学校の夏 季休業日は午前9時～ 午後4時	午前9時～午後4時	午前9時～午後4時	平日:午前9時30分～ 午後7時 土 日祝日:午前9時30分 ～午後5時30分(月曜 休館)
利用条件	11才未満と飲酒した者は 閲覧不可	11歳未満は館内の秩序を 乱さなければ閲覧可	12歳以上は蔵書全てを利 用可・11歳未満は館内の 秩序を乱さなければ閲覧 可	喜多方市・西会津町・ 北塩原村に在住また は喜多方市に在勤・在 学中の方
閲覧料	無料	無料	無料	無料
閲覧方法	閉架・目録から選んで係 員が出納・1回1冊	閉架・目録から選んで係 員が出納・1回1冊	開架	開架
貸出	不可	貸出には喜多方町在住で 一定額以上の納税実績 のある保証人を立てる必 要があった。	1回1冊・期限10日	1回10冊・期限2週間
蔵書数	1,755冊	記載なし	6,693冊	107,246冊(平成25年3 月現在)
その他	目録には、明治の大ベス トセラー、中村正直『西国 立志編』や、小説では谷 崎潤一郎『刺青』などの 書名が見られる。	所在地記載なし	所在地は喜多方町字沼 田・閲覧室は男女別・一 日平均の閲覧者数約71 人	所在地は喜多方市字 柳原7503-1

こんな資料も！

喜多方通俗図書館の蔵書印のある『児童のめぐみ しのぶ草』と題されたこの冊子は、明治35年(1902)から明治38年(1905)にかけて福島県を襲った冷害凶作や風水害によって困窮した児童を救済する資金集めのために、福島県教育会が明治39年(1906)に発行したものです。口絵には当時の農村の姿や救済事業の写真が見られます。目次には寄稿者として川合玉堂や坪内逍遙、島村抱月、泉鏡花ら、明治の画人・文人の名が並んでいます。

注: 書庫にあります。館内閲覧可。貸出はできません。



通俗図書館と現在の図書館の違い

館名にある「通俗図書館」とは、「太平洋戦争前の日本において一般庶民の利用を目的とする啓蒙・教化のための図書館」を意味します。現在の社会教育にあたるものを明治から大正にかけて「通俗教育」と呼び、学校・家庭教育に対して一般民衆の教育、特に義務教育である尋常小学校を修了して社会に出た青少年・成人に分かりやすい一般教養を与えるためのものとして、講演会や幻燈会の開催など様々な活動が奨励されていました。通俗図書館は読書を通して教養を高める為の施設として、明治末年頃から全国に多く作られました。明治38年(1905)には100館足らずであったものが、大正8年(1919)には約900館、大正12年(1922)には2055館と急増しました。生活に身近で貸出しにも応えるなど現在の公共図書館とも共通する点を持っていますが、最も大きな違いは、市民の知的欲求に応える為のものというよりは、国家による民衆の思想善導を強化するための機関という性格を強く持っており、その為選書が重要視されていました。

【参考文献】

『喜多方市史 第10巻 文化 各論編Ⅲ』喜多方市史編纂委員会(L216-キ)

『最新 図書館用語大辞典』図書館用語辞典編集委員会(R010-サ)

喜多方市立図書館100周年記念事業



7月27日(土) 13:30~15:00 「としょかんDEマジックパラダイス」

喜多方出身のマジシャン、ケン・ダニエルさんによるマジックショーとマジック講座や絵本の読み聞かせ。

9月28日(土) 18:30~20:00 「図書館のタベ～音楽と言葉のコラボレーション～」

喜多方市在住のミュージシャン・板橋 亮さんと細川 佳那枝さんによる演奏会。

10月26日(土) 13:30~15:00 「浅見彰宏さん講演会 -3.11後に改めて思う福島・会津の魅力とは-」

昨年刊行された、『僕が百姓になった理由』の著者・浅見彰宏さんの講演会。

新着図書おすすめラインナップ！

毎週木曜日に新刊が入ります
お楽しみに



『光の山』

玄侑 宗久／著 新潮社
2013・4(F-ゲ)



カセツ、線量、除染。馴染みのない言葉だったのに、今や目にしない、耳にしない日はなくなりました。それらの言葉と共に「あの日」以降を生きる人々の物語を、静かに綴った短編集です。

『コミュニティデザインの時代 —自分たちで「まち」をつくる—』

山崎 亮／著 中央公論新社
2012・9(318-ヤ)
※2階新書コーナーにあります



人口減少地は最先端？まちの本当の豊かさとは？人と人との「いいあそばいのつながり」とは？全国で常時50以上のコミュニティづくりに携わる著者による、まちづくりの新しい視点。

こちらも新着！

- *『綾瀬はるか「戦争」を聞く』(岩波ジュニア新書) TBSテレビ『NEWS23』取材班／編 岩波書店 2013.4 (210-ア) ※2階ヤングアダルトコーナーにあります
- *『命のビザを繋いだ男』 山田 純大／著 NHK出版 2013.4 (289-コ)
- *『あしあと動物園 足拓コレクターのフィールド日記』 小宮輝之／著 ぱる出版 2013. 6 (480-コ)
- *『地元菓子』 若菜 晃子／著 新潮社 2013.5 (596-フ)
- *『演じてみようつくってみよう紙芝居』 長野ヒデ子／編・著 石風社 2013. 6 (779-ナ)
- *『金田一秀穂の日本語用例採集帳』 金田一秀穂／著 学研 2013. 4 (810-キ)
- *『文豪の家』 高橋 敏夫／監修 エクスナレッジ 2013.4 (910-ブ)

観光コンシェルジュの

喜多方再発見

～寺院編～

願成寺（上三宮町）とも関わりが深い

大悟山 光徳寺

喜多方は会津で最も早く浄土宗の寺が建立された土地です。浄土宗の寺は会津地区に十二ヶ寺ありますが、その中でも願成寺の他に鎌倉時代以来の由緒を伝えているのが光徳寺とされています。光徳寺は、喜多方市岩月町入田付・杉山の西方の高台にあり、文永元年（1264）に空行くうぎょうという僧が開山しました。天正13年（1585）に伊達政宗の攻撃により焼失しますが、蘆名義廣あしなよしひろから良材と人夫を与えられ修営されました。参道の入口には大きな六地藏の石塔が建てられ、境内には、人々の身の安全を祈願して「身代地藏尊」とそれを安置する地藏堂が建立されています。

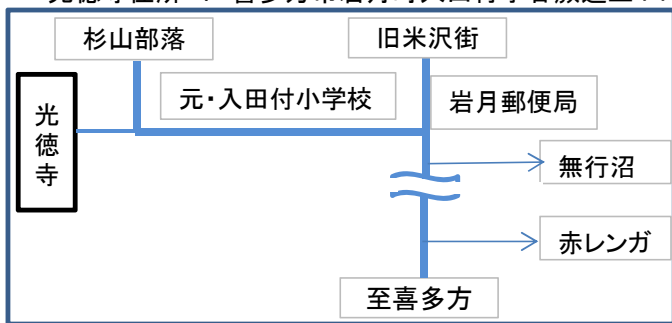


光徳寺から広がる歴史～願成寺の再興～

上三宮町の願成寺は実成じつじょうにより嘉禄3年（1227）に建立されましたが、蒲生氏の文禄年中・今福求之助が領した時に願成寺の堂舎を壊して居宅にしてしまい、住持の雄誉おうえも越後へ行ってしまったため、願成寺は荒廃してしまいました。そこで、光徳寺の行誉ぎょうよの高徳を伝え聞いた村人たちは、行誉に住持になってほしいと懇願し、寛文5年（1665）に上三宮村の中央西側の現在地に再建されました。延宝3年（1675）には、中村（松山町）来迎寺にあった木造阿弥陀如来及び両脇侍像（国指定重要文化財）が移され、会津大仏として親しまれています。

光徳寺住所：喜多方市岩月町入田付字甘藪道上1162

協力：光徳寺住職 倉谷様



【参考文献】

『喜多方市史 第1巻』『喜多方市史 第8巻』

喜多方市史編纂委員会／編集 1999.7 1991.3 (L216-キ)

『岩月町小史—古事と民話・伝説—』

岩月まちおこし委員会／編集 2011.2 (L361-イ)

『会津の寺』

図書館ここだけの話

今年、喜多方市立図書館が100周年を迎えたおかげで楽しい催し物が目白押しです。「どれに参加しようか？」詳しくは、チラシやポスターでご確認ください。ご参加をお待ちしております。さて、「ききみみずきん」の編集集中、図書館設立時（100年前）のことがわかる資料がたくさん出てきました。このように図書館は、その街の歴史的な資料の保存もしています。100年の間、図書館職員だった方々が残して下さった資料のお陰で現在の図書館に至るまでのことがだいぶわかってきました。本当に先人の皆様には、感謝しております。現在の私たちはこの先の100年へ、未来へ、橋渡しをしているに過ぎません。先人の業績を今後も継承していきます（館長）

【編集後記】

春号の「観光コンシェルジュの喜多方再発見」コーナーでご紹介しました、愛宕神社境内の添川廉斎先生顕彰碑ですが、『会北史談 第54号』（L212-カ）に古文書研究会の川口芳明先生による翻刻が掲載されています。どうぞご覧ください。（A・S）図書館は毎年「レトロ横丁」の七夕飾りに参加しています。今年は、ユニット折り紙教室で可愛いお星様を作りました♪ 7月から催し物がもりだくさんです。みなさんに楽しんでもらえるよう、頑張って準備しています。ぜひ参加して下さい。（A・O）